

除夜会・御正忌ご報告、永代経&御口ウソク講&彼岸会法要・婦人会&門徒総会・茶話会のご案内

身の切れるような寒い朝が続きます。梅の蕾の膨らみや、少しずつ長くなる日を見つけては、春の足音を探してしまいます。電気代の請求額を見て、飛び上がるのもこの時期です。

12月、真弓下のみなさまによる草刈り、お磨きのお蔭で、無事に年が越せました。手作りの竹灯籠が境内を照らす除夜会の夜、お内陣を瓢箪ランプがお荘厳し、2022年最後のお勤めとご法話の後、粕汁やほうじ茶で温まりながらそれぞれお話をしたり、鐘をついたり、書初めをしたりする方々で賑わったご本堂。50枚ほど出来あがった思い思いの書初めは、本堂横の廊下に掲示しています。お参りの際には是非ご覧ください。また、1月には御正忌報恩講が厳修されました（詳細は裏面のレポートを！）。御鉢米料御納付の一覧は、例年通り別紙にてご確認くださいませ。さて、2月は永代経法要をお勤めします。御講師は佐々木智航師（天草下組浄専寺）です。続いて3月、当山でのお勤めは9年に一度となる元中通組御口ウソク講物故者追悼法要がございます。こちらは対象の方や、講中方、婦人会のおまかないの方々に個別にご案内いたします。さらに春季彼岸会法要もがございます。御講師は原田英真師（豊浦組専徳寺）です。その他、茶話会での土香炉作りや、スケッチの色づけなど、それぞれ別紙にて詳細をご確認くださいませ。行事が盛りだくさんの時期。何卒ご助力を賜れますよう、よろしくお願い申し上げます。 合掌



総力戦でお磨き



除夜の鐘・順番待ちの列



除夜元旦・自由に書初め



みやま市の研修で住職講演



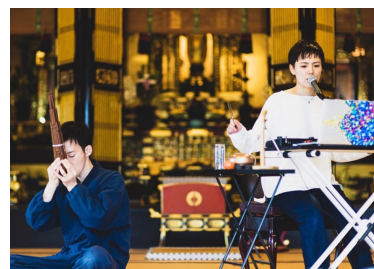
今年もみんなで竹灯籠作り



昨年に続き瓢箪の灯り展も



御正忌のお聴聞・満堂



御念佛ライブのご縁が増加

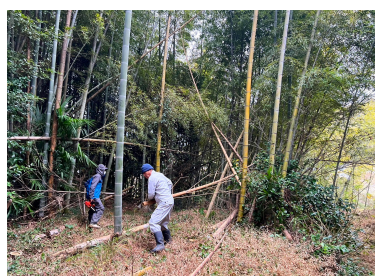
1～2月の予定（新型コロナウイルスの影響を鑑みて以下の通りと致します）

- 【実施】 2月4日（土）13時～ 蠟燭講総代会議 @浄弘寺 ※門徒会長と住職で出席
- 【実施】 2月9日（木）13時～ 婦人会役員会議 @明行寺 ※アドバイザーと役員で決算事前確認等を行います
- 【実施】 2月15日（水）14～17時 茶話会「喫茶去・明行寺」vol.15 @明行寺 ※お申込期限：2/12（日）
- 【実施】 2月17日（金）13時半～ 永代経法要 @明行寺（おまかない地域：山川中原）※事前のお申込みは不要です
- 【実施】 3月1日（水）13時～ 御口ウソク講物故者追悼法要1日目 @明行寺（おまかない地域：真弓上）※対象者は個別案内
- 【実施】 3月2日（木）13時～ 御口ウソク講物故者追悼法要2日目 @明行寺（おまかない地域：上伍位軒・北関）
- 【実施】 3月16日（木）12時～ 春季婦人会費収納会 @明行寺 ※婦人会費を持って来られる方は、この時間にお越しください。
13時半～ 春季彼岸会・婦人会決算報告会 @明行寺
- 【実施】 3月19日（日）14～17時 茶話会「喫茶去・明行寺」vol.16 @明行寺 ※お申込期限：3/12（日）
- 【実施】 3月23日（木）13時半～ 決算報告事前確認会 @明行寺 ※門徒会役員と住職で総会の事前確認等を行います
- 【実施】 3月28日（火）15時～ 門徒総会 @明行寺 ※役員・講中方以外で出席をご希望の場合は住職まで事前にご連絡ください

<住職出張予定> 2/20～25 友好70周年記念雅楽演奏 @カンボジア、2/25・26 小粥展 @熊本来迎院、3/12 お取次 @熊本山門南組、3/31・4/1 お取次 @浄弘寺 ※この期間中は新たにお仏事をお受けすることができません。ご了承下さいませ。

< 行事レポート 『令和四年度 御正忌報恩講』 >

1月といえば御正忌報恩講。今日も絶え間なく「南無阿弥陀仏」と私に届いてくださるお念仏の御法（おみのり）は、浄土真宗のご開山・親鸞聖人のお示しなくして語ることはできません。今年は聖人のご往生から760年目の節目。13日の事前準備の日、お餅つきが婦人会のみなさまの手によって行われ、数えあげれば千個以上の丸餅が御華束としてお供えされました。遅しい講中方による竹藪清掃と、門徒会役員による御鉢米料の確認も、例年この日に行われています。法要当日は、婦人会によるお土産作り、講中方の仏旗掲揚や交通整備のお蔭で、15・16日の二日間、無事のお勤めとなりました。御講師は、寂静寺（那珂川市）の住職・佐々木龍明師。私が命を遂げた後、お浄土へと拯（すく）いってくださる「往相」、そして娑婆世界を生きる有縁の人たちを、同じく拯いに戻る「還相」という南無阿弥陀仏の二つのおはたらきについて、やさしく、あつい言葉でお取り次ぎくださいました。満員のご本堂で「死すべき命が、生まれ行く命へと転ぜられてゆく」お念仏のお話の後には、御講師にあわせて聖人一流章を誦じるお同行のお声が水辺の波紋のごとく拡がり、今日私に届くこの御法は、一体誰の手によるどんなお蔭様だったのかをこの身知らしめてくださる、尊く、あたたかいご縁でございました。多くの方々のお力添えによって、ようやくお勤めすることがかなうご法要です。この場を借りて、心より御礼申し上げます。



勇猛果敢な竹藪清掃



お餅つき束の間の休息



佐々木龍明先生のお話に胸熱



お土産のお寿司作り



意外と難しい御華束の色塗り



役員さん御鉢米料のご確認



講中方無くして飾れない仏旗



御華束の解体は力仕事

== コラム 「お線香はどのようにお供えしたらよいのですか？」 ==

お線香は他の宗派では立てるところもありますが、浄土真宗では香炉の大きさに合わせて、適当な長さに折ってから火を付け、必ず横にして供えます。

お線香の原型は、竹の棒にお香の粉を塗ったものであるといわれています。これは長時間にわたってお供えするために、考えだされたものです。浄土真宗のご本山である本願寺では、開門から閉門まで、お香を欠かすことはありません。常にお香をたくために、香炉の灰に溝をつくり、そこに抹香を敷き詰めるよう工夫をしています。浄土真宗で用いるお線香はこれに準じたもので、横にしてお供えするのです。

常にお香をたくことで、おのずと香りが私たちの身に染まります。いつでも誰にでも香りがゆきわたるかのように、阿弥陀如来は、わけへだてない慈悲の心を私たちに向けられています。親鸞聖人は、阿弥陀如来のお心に触れ、お念仏申す身になった人を「染香人（ぜんこうにん）」と讃えられました。お香の香りに染まった人の身から、自然とかぐわしい香りが漂ってくるように、お念仏申す人は、阿弥陀如来のはたらきによって身が飾られると述べられたのです。

前田壽雄師

昭和49年北海道生まれ。浄土真宗本願寺派専念寺衆徒。通信教育部人間科学部人間科学科准教授。浄土真宗本願寺派東京仏教学院研究科講師。著書に『「ただ念仏」の教え—法然聖人から親鸞聖人へ—』『書いて味わう讃仏偈 重誓偈』『教行信証のことは—やさしい法話—』がある。明行寺住職が神奈川県の上正寺でお勤めしていたご縁で出遇った恩師。

明行寺 ホームページアドレス
<https://www.myogyoji1620.com>

▼ 明行寺LINE ▼



YouTube



Instagram